

2022年5月
谷矢部東町内会役員会
町内会長 石綱正夫(3班)
副会長 山崎直実(8班)

町内会運営の改革

人と人の接触が減ったコロナ禍により、近隣住民の交流と助け合いを前提としてきた町内会運営のひずみが明らかになりました。これまで長年の慣習で運営されてきた町内会のやり方は変える改革を開始します。

2月に町内のみなさまのご意見を伺いました。その結果をもとに改革案をまとめ、5月29日第68回谷矢部東町内会総会に付議いたします。今年度からできることから取り掛かります。さらなる改革を進めるため、みなさまの知恵と力をお貸してください。

1. 改革の背景、問題点と課題

(1)組織体制の見直し、役員の見直し

昭和29年、軍需工場跡地を県営住宅として分譲したことから始まった当町内は、初期入居者の孫世代への代替わりや転入の若い世帯の割合が増え、世帯構成が変化している。町内会運営の中心的な担い手である世代の高齢化や役員の一部の人への偏りにより、運営に必要な員数に齟齬が出始めている。

(2)地域への関心や結びつきの強化

ライフスタイルの多様化により地域への依存性が弱くなり、町内居住者相互の関係性が希薄になっている。

(3)防災体制の強化

災害の激甚化により防災の強化が求められ、地域住民の助け合いの必要性が高まっている。

(4)町内会運営のデジタル化、情報伝達方法のデジタル化

世の中のデジタル化の発展に対し、回覧と掲示板の情報伝達方法では、即時性と効率性が悪くなっている。

2. 改革の内容

(1)組織体制の見直しと役員の業務の見直し

①組織体制の見直し

現状と時代にそぐわなくなっている部を統廃合する。

○女性部の廃止 [意見を基に一部修正]

町内会の構成員である女性を対象とした活動を目的とし、これまで女性の交流の場として十分に役割を果たしてきた。しかしながら、女性の社会進出などとともに徐々に目的が希薄化していた。現在は、単身高齢者向け食事会の開催と、祭礼やフェスティバル等での食事用意を担当。

参加者が固定化してきた単身高齢者向け食事会は、近隣町内会実施の「シルバーカフェ(高齢者向けお茶会)」を参考に総務部で内容を検討していく。

イベント時の食事用意の担当は、女性に限らずとし、新設するイベント部で方法を検討。今後は、女性同士の交流の場となるものを検討していく。

○青年部の廃止と子供会の位置づけ明確化

町内会運営を実働部隊としてサポートし、青少年向けの活動を担うことを目的としているが、現在では、青少年指導員、スポーツ体育指導員が担うとともに、町内会の年齢構成的に青年が少ないことから、具体的な活動は健民祭の準備・運営・実行のみとなり、祭礼・フェスティバルなどの実行は、事実上、役員や東友会が担ってきた。今後は、新設するイベント部が中心となって企画を担い、実行には班長も動員する。

子供会は組織上の位置づけが明確でなかったため、部として位置づけを明確化する。年長組の未就学児からお楽しみ会に招待するなど、ひよこの会の統合や、それによる役員のローテーションなどは、子供会内で検討する。

○イベント部新設

町内の懇親を目的とした祭礼、フェスティバル等のイベントを企画運営する部を新設する。各イベントを企画し、体制づくりと予算・実績管理を行う。これまでの町内会有志のボランティアによる運営では、参加人員が固定化し、人手不足となるだけでなく、新たな会員との距離感が埋まらない。有志による運営ではなく、町内会員(先ずは班長)の参加を促進していく必要があり、部長と副部長(数名)のほか、班長を部員として編成。イベント時には、町内会員参加型運営の推進を目指す。(イベント部だけでイベントを行うわけではない)

<課題解決に向けて>

- ・運営に関する役割の棚卸し、役割の明確化、手順書作成・マニュアル化
- ・任期2年を確約(本人意志による再任は妨げない)、役職を受け易くする。
- ・町内会員全員で苦勞と楽しさ・達成感を分かち合えるような風土作り、新旧会員の交流、融合を目指す。

○交通安全部の廃止

市町村の交通安全のボランティア団体である「交通安全母の会」の役員が、町内会と連携するために所属する部としてきたが、町内会における独自活動はないため、部としては廃止。「交通安全母の会」は子供会との連携とする。

②役員の見直し

○会長職・副会長職の見直しに向けた検討 [意見を基に一部修正]

リタイア世代ではなく、現役世代でも会長職が担えるように、会長の職務負担軽減、副会長への職務分割を検討していく。

(現状、副会長には固定的な職務はない。会長に事故ある時の職務代行。)

会長・副会長は、立候補と推薦により候補者を選定。

複数の副会長のうち1名は、班長のなかから選任する。

[意見と推薦を基にした2022年度の運営体制]

現状、三役(会長・副会長・会計)のなり手がほとんどおらず、このままでは町内会運営の停止も憂慮される事態。2022年度から、班長1名が副会長を兼務する体制で臨む。ただし、班長負荷を考慮し、固定的な職務は担当しない。

○班長の任期と職務の見直し [意見を基に一部修正]

班長の任期を半年から1年間とする。

班長の班内での持回り制は維持。班長職は、人物固定ではなく世帯で担う。

(転居してきたばかりや高齢などの場合、班内での協議により班長を決める)

班長は、会費集金方法の変更など業務負担軽減を図る一方で、町内会運営の一部を兼務する。班長が高齢等の理由で業務が困難の場合は、班内から班長代理を出し業務を担う。イベント時の増援などを目的に副班長制を検討する。

○会費集金方法の変更 [意見を基に一部修正]

町内会費を年会費制とする。

町内会銀行口座(三井住友銀行戸塚支店)への振込制度を導入。現金集金が銀行振込か選択できる。振込手数料は自己負担。

班長は、銀行振込済の世帯には領収書をポスティング。集金の世帯には、年会費をこれまでと同様の方法で年1回徴収。銀行振込と現金集金は6～7月に実施する予定。

2022年度は、とりあえず銀行振込を導入するが、コンビニ収納、電子マネーでの支払いなどの方法も含め、会員と班長と会計の作業負荷や手数料が少ない方法を検討していく。

(2)地域への関心や結びつきの強化

①フェスティバルの見直し、班長のイベント参加

ミニ祭礼的なこれまでのフェスティバルを見直し、炊き出し訓練や災害情報連絡訓練などの防災訓練の要素を取り入れたイベントに変更する。

コロナ禍で開催した七福神巡りや芸術祭なども参考にイベント部で検討する。班長は業務として、祭礼など各イベントに参加する

②町内会WEBサイトの活用

町内会WEBサイトで、町内の歴史、地理などを紹介する。歴史や地理は、過去の建造物や地盤、道や河川、文化的背景を知ることでもあり、地域理解や防災に役立つとともに、地域の結びつきにつながる。

(3)防災体制の強化

①防災知識習得者の拡大 [意見を基に一部修正]

多くの方に「家庭防災委員」の講習受講を促す。地域防災に関する基礎知識や防災体制の仕組みを理解することで、災害時の適切な行動、共助を図る。

災害時に町内で適切に防災を初動させるため、町内会長経験者、防災部長経験者など地域防災の要諦を知る方を地域防災のキーパーソン「防災レジェンド」として防災体制に参画してもらう。(防災レジェンド:石綱町内会長、鈴木第二洗心会会長、上條元防災部長)

フェスティバルを、防災訓練の要素を取り入れたイベントとして開催することを検討する。

子供会と連携し、災害が平日昼間の外出時に起きた場合の子供や高齢者の安否状況把握の方法を検討する。

②全世帯調査の実施

町内会に属していなくとも、災害時の共助や災害救援物資の提供などが必要となるため、全世帯調査の実施を検討していく。

(4)町内会運営のデジタル化、情報伝達方法のデジタル化

①町内会WEBサイトの活用

1月稼働の「谷矢部東町内会サイト」(<https://www.yatoyabe-higashi.com/>)を活用していく。

町内会からのお知らせ、町内の防災計画・防犯・美化の活動の内容や、町内会の組織・役員体制や規程等の各資料を置く場所として、充実していく。

町内の歴史や地理、人物を紹介するコンテンツ「ぶらりYABE」のコンテンツ制作協力者を町内会員の中から募り、一緒に楽しみながら調べ充実させていく。

[例] 東町内会サイト「ぶらりYABE」の現在のコンテンツと今後の案

(掲載済コンテンツ、さらに充実)

地理:江戸時代は戸塚宿の助郷として広がる田畑、矢部池と鳥が谷から柏尾川に流れる2つの水路。今の内水氾濫を防ぐ治水の様子。

散歩がてら行ける町内近隣で富士山が見える場所の紹介。

太平洋戦争中の町内の地図と航空写真、当時、この地にあった海軍工廠向けに特殊鉄鋼(たたら)を製造していた「東亞特殊製鋼、東和産業」の様子。同社社長で自民党の衆議院議員・松岡松平を紹介。

人物:矢部小校歌作詞者・童話作家「佐藤さとる」が書いた矢部の様子。佐藤氏の長女を教えた新井春海先生(14班)が語る当時の様子。

町内居住の彫刻家・渡邊尋志さん(6班A)の活動。

歴史:横須賀・衣笠の矢部郷を治めた三浦一族の大多和氏。その知行地のひとつが戸塚区矢部町と言われる。1406年頃、この地を治めていた地頭、三浦一族に連なる竹ノ下小次郎。小次郎が建立した、新田義貞の三男・義宗の守り本尊を祀る街山八幡神社。北条政子が開基した雲林寺などを紹介。

(今後のコンテンツ案)

地理:吉田茂首相が作ったワンマン道路・横浜新道。盛土と矢部トンネル。

歴史:戸塚の歴史(太平洋戦争中の空襲の様子。東海道五十三次の様子)

②マチコミ

防災・防犯上の緊急な重要情報やWEBサイト情報を、無料のEメールを使った新情報連絡網サービス「マチコミ」を活用し伝達していく。デジタル慣れしていない会員を考慮し、これまでどおり、回覧と掲示板、町内だよりは継続する。

「マチコミ <https://machicomi.jp/>」

登録は、「登録用メールアドレス endm5276@machikomi.jp」へ空メール送信

以上